

「もやもや病とはどんな病気ですか。」

「脳の太い動脈が詰まり、血流を補おうと細い血管網が新たにできてしまう病気で、エックス線で検査すると、血管網がたばこの煙のように「もやもや」と映ることから、発見した日本人医師が名付けました。年間約400〜500人が新たに診断され、全国に約7500人いると推定されます」

「どんな症状から診断されますか。」

専門外来へ

◎ ようこそ



「脳への血流が不足するために過呼吸などを招くほか、新しくできた細い血管が詰まったり破れたりしやすくなります」

「患者の約7割は5〜10歳の子どもです。ラーメンなど

もやもや病 (九州大)

飯原弘二・脳神経外科教授

患者の7割は5〜10歳

の熱い食べ物を「ふーふー」と冷ますときや、リコーダーを吹いたとき、激しい運動をしたときなどに過呼吸発作を起こしたのがきっかけで見つかることがあります。残りの約3割は40歳代前後で発症することが多く、脳出血や頭痛などを起こします」

「原因は何ですか。」

「東アジア、特に日本に多く、女性患者が男性患者の1

・8倍と多いのも特徴ですが、原因はまだ分かっていません」

「多くの症例を集めて原因解明や治療法の確立につなげようと、2016年7月、専門外来を設けました。遺伝性があるため、両親が若いときに脳梗塞になったことがある人は注意が必要で、定期的に脳ドックを受けることを勧めます」

治療法は。

「血を固まりにくくする薬を飲むほか、症状が重い場合には、詰まった脳動脈の代わりに血流の通り道をつくるバイパス手術をします。手術の成功率は高く、早期に発見して治療を受ければ、その後は普段通りの生活を送ることができます」

◇

毎週月、水曜日の午前。原則、かかりつけ医から予約センターを通じて予約が必要。(聞き手・高良亜矢子)